

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

73



市民病院 院長 神谷里明

遠隔診療、WEB会議

コロナウイルス感染症の広がりによる外出や人が集まることへの制限は悪いことばかりではありません。多くの方が令和2年の春頃よりテレワーク、WEB会議、WEB講演会を初めて経験したと思います。最初は使い方もわからず混乱しましたが経験を重ねることにより色々便利なことにも気づき始めました。今までは移動を伴うことにより仕事を休まなければならなく、参加が難しかった会議や講演会への参加が職場や自宅にいながら容易にできるようになりました。場合によっては時間、空間を飛び越え海外のイベントや会議などにも日本にいながら簡単に参加

できるようになりました。時間、移動費用などを抑えながら今までできなかった体験ができたり、知識を得ることができるようになりました。しかしながら画面で見ただけではわからないことも多くあります。直接会場でなければわからない雰囲気、熱気もあります。

テレワークも勧められていますが、職種によってはできないものも多くあります。直接ものを作る、直接人に接することが必要な職業です。医療も直接人と接することが必要な仕事です。コロナが増え続けているときに病院に近づきたくない(医療者側からすれば近づけたくない)などの理由により電話診療が特例として認められました。安定している人に対して症状の変化などを聞き取り、変わらなければ同じ処方をする。しかし病院に診察に通っている人は安定している人ばかりではありません。変化する危険性があるために定期的に通院してもらい、その変化を早く見つけ、対処していくのが我々の仕事だと思っています。話の内容だけでなく声の変化、微妙な顔色の変化などを声だけから判断するのは難しい。また触診が一切できないというのは医療からすればかなり制限をかけた診療としか言い様がありません。まだ遠隔診療が今までの外来診療に置き換わるのは先のことだと感じています。